

# 第9回福山駅前デザイン会議を開催

〔日時：2021年（令和3年）2月18日（木）10時00分～12時00分〕  
〔場所：福山市役所 60会議室（オンライン開催）〕

今回のデザイン会議は、福山駅周辺デザイン計画の更新とウォーカブルな福山駅前広場のあり方について議論を行いました。

今年度はコロナ禍という非常に厳しい状況ではありましたが、道路占用許可の特例や、国家戦略特区の指定による、道路空間を活用したテラス営業の実施など、社会の状況に柔軟に対応しながら、着実に官民連携でデザイン計画を推進してきました。

また、広島県内で初めて都市再生推進法人に指定された「株式会社築切家守舎」が新たにデザイン会議の構成員に加わり、官民連携の体制が強化されました。



## 福山駅周辺デザイン計画の更新について

### 1 デザイン性のある公共空間の設計

- 居心地が良く歩きたくなるまちをどのようにつくるかを考えなければいけない。道路構造令などに基づいたこれまでの設計方法だけではなく、デザイン性のことも含めて設計しなければいけない。

### 2 一人でも居心地が良いと感じるプライベートな公共空間

- 広場はたくさんの方が集まるという認識で一般的に設計されるものだが、居心地の良さに対する価値観は人によって違うため、一人で利用しても居心地が良いと感じる空間づくりを検討しなければならない。

### 3 コロナ禍に対応した取組

- コロナ禍で3密を防ぐことが求められている中、道路空間を活用したテラス営業の実施などをすることで、3密を防ぎながら、新しい生活様式に対応したにぎわいづくりを行っている。今後も、社会の状況に柔軟に対応しながら、駅前再生を止めることなく、推進していく。

### 4 関連性の維持

- デザイン計画では様々な官民連携の事業が複線的に取り組むこととされている。今後大事なことは、これらの事業の関連性を維持しながら推進し、事業効果を高めることだ。

## ウォーカブルな駅前広場のあり方について

### 1 人が集い、憩い、くつろぐための空間の考え方

- 社会の変化とともに、公共空間に求められる役割が変わってきている。今後は、交通結節機能を強化しながら、人が集い、憩い、くつろぐための機能を確保する必要がある。駅周辺の民間の開発やリノベーション、駅前広場のそれぞれが自分の敷地のことだけを考えて計画するのではなく、周辺のまちと有機的に連携する考え方が大事だ。
- 福山駅は福山城の中に作られた駅だ。新幹線を降りたら、お城の中に降り立ったという印象を与えることが大事だ。駅の北側にある福山城から駅の南側までを一体的につなげる考え方が大事だ。
- 福山の都市核として、多様な人材の集積や交流の機会を充実させることによって、福山に対する魅力を高めていく考え方が大事だ。
- 安心感や躍動感、居心地の良さを感じられる空間をつくることで、福山に住んでいる人や福山を訪れた人のまちに対するイメージを変えて行くことが大事だ。

（次頁に続く）

## 2 交通結節機能の考え方

- 今は時代の変わり目にあるため、20年後、30年後といった先を見る視点が大事になる。近い将来、車を使わない人が増えてきたり、自動運転が実現したりするだろう。将来の事を正確に予測できない中で、状況の変化に柔軟に対応していくためには、実験を繰り返しながら、計画を検討する考え方が大事だ。
  - 駅周辺と郊外の魅力をどうやって高めていくかを総合的に考えていかなければならない。駅前に訪れる人を増やすと同時に郊外の魅力を高めることによって、駅前と郊外の間の交通需要を増やし、公共交通の利用者を増やすという考え方が大事だ。
  - 車でのアクセスが多いため、駅周辺には駐車場が必要。駅周辺の事業者が個々に駐車場を有するのではなく、駐車場を集約していく考え方が大事だ。
- ## 3 官民連携の考え方
- 民間が公共空間を活用して得た収益をまちに還元することで、エリアの価値を上げていく考え方が大事だ。
  - 駅前広場は作って終わりではない。市民に愛され続ける駅前広場をどのようにつくっていくかを議論しなければならない。民間の動機や情熱を大事にしながら、官民の役割と官民が連携する部分をはっきりさせることが大事だ。

## 4 ウォーカブルエリアの考え方

- ウォーカブル政策では、人々がより健康に過ごせることが大事なテーマになるだろう。居心地の良い公共空間をつくり、歩く人が増えることによって、人々が健康に暮らせるようになるという考え方が大事だ。
- 都市化とともに地域内でのコミュニケーションが減ってきている。コミュニケーションの減少は人々の心の病を生むことにもつながるだろう。コミュニケーションの活性化をテーマにして、毎日街中で楽しく会話ができる公共空間を増やしていくことが大事だ。

### 公共空間を活用した取組を推進するにあたって注意する点

#### 1 ガイドラインの作成

- 広告物の場合は内容やデザインのルールを定めたガイドラインが必要だ。ルールが無いと、不適切な広告が氾濫したり、バラバラなデザインによって統一感の無い印象を与えることになる。

#### 2 投資するものを決める

- エリアの将来を議論をしながら、公共空間を活用して得た収益を何に投資していくかを決めることが大事だ。その際、公共空間を活用して収益を上げる以上、会計は明瞭でなければならない。収益がどのように使われて、どのような効果を生んでいるかを説明する必要がある。